

ハザードマップの読み方を学ぼう!



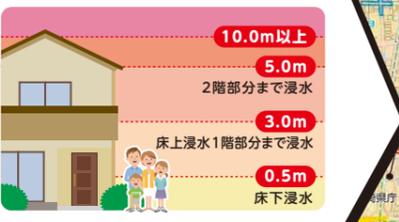
台風や大雨による洪水は毎年、全国各地で大きな被害をもたらしています。洪水の被害に備えるためには、どこに・どのくらいの被害が出るのかを確認しておくことが大切です。どこに・どのくらいの被害が出るのかを示した地図を「ハザードマップ」といいます。

ハザードマップは、「浸水想定区域図」を元に作成されています。浸水とは、建物や道路が水に浸かってしまう状態のことをいいます。浸水想定区域図とは、雨で川の水が溢れた時に、浸水が起こりそうな場所と浸水した場合の水の深さを予想した図のことで、宮崎市を例に、ハザードマップの読み方を学んでみましょう。

凡例	指定避難所 (洪水浸水想定区域外)	河川洪水浸水深	20.0m以上の区域	家屋倒壊等氾濫区域 (氾濫流・河岸浸食)
	指定避難所 (洪水浸水想定区域内)		10.0m~20.0m未満の区域	指定水位観測所
	主要施設		5.0m~10.0m未満の区域	過去の浸水箇所 (台風・豪雨等)
	救急告知施設 (病院)		3.0m~5.0m未満の区域	アンダーパス
	ライフライン		1.0m~3.0m未満の区域	災害危険区域
			0.5m~1.0m未満の区域	
			0.3m~0.5m未満の区域	
			0.3m未満の区域	



「河川洪水浸水深」って?
洪水によって、建物や道路が水に浸かった時に、地面から何mの場所まで水が来るかを色で表しています。



避難所の場所を確認することができます。

これまでに浸水が起きた場所や、浸水の危険がある場所は避けて、安全な場所に避難しましょう!

水色の線で囲まれている箇所は、昔浸水が起こった場所です。

マイ・タイムラインを作ってみよう!

マイ・タイムラインとは、災害の発生に備えて、「いつ、誰が、何をするか」をまとめた、時間割のようなものです。どのタイミングで避難するのか、どこに避難するのかをあらかじめ確認しておけば、いざという時に、焦らず安全に避難することができます。ハザードマップをもとに、マイ・タイムラインを作成してみましょう。

マイ・タイムライン作成キット

逃げキット →

身の回りの危険を調べてみよう!

ハザードマップは、自治体のホームページや「重ねるハザードマップ」で確認できるよ!



重ねるハザードマップ

洪水だけでなく、津波や土砂災害などの被害情報を重ねて表示できます。